



至：御在所山

道が分からず下流へ下る

途中で地図とコンパスを落とし、10回は登ったことのある御在所山へ向かうも道迷い。途中で暗くなりビバーク。翌日、自力下山した。

雨乞岳～杉峠～御在所の間に地図とコンパスを落とすが、来た道に戻らず、10回は登ったことのある御在所へ向かうことを決断。上水晶から国見に向かうところで道しるべを見失い下流へ下る。そして、台風が近づいてくる情報が不安を増長し、体力の低下が更に輪をかける。暗くなる前にビバークポイントを探し、体力の低下を防いだ。キャンプの準備ができ、辺りを歩くと『羽鳥峰へ』の標識を見つけ、以前、釈迦ヶ岳の下山ルートで通ったことがあった峰であることが確認できた。夜中に何度も起きて家族の事を思うと泣けてきた。

翌日、羽鳥峰～朝明溪谷へ辿り着く。自宅に電話したときは、捜索隊が出動する寸前であった。(HP要約)

杉峠から東へ向かう沢ルートは道迷いが多く発生している。地形が複雑なのか道が分かりづらいのか行ったことがないので分からないが地図が無くては道迷いを語れない。国見峠への沢の道。根の平峠への沢の道。中峠への沢の道。羽鳥峰への沢の道。いくつか脱出の道はあったが地図が無くてはどこを行けばよいのか分からない。

下山できてよかったが、地図を失くした場合は、同ルート下降が原則だと思う。